

ホットライン

平成25年度 学長特別研究助成金授与式

名古屋工業会が大学支援の一環として教員の研究を支援する「学長特別研究助成金」の授与式が5月15日(水)に行われ、名古屋工業会の篠田理事長、二杵常務理事が出席し、高橋学長から受賞者に賞状が授与された。

今年度は、若手（任期解除助教及びテニユア解除）及び人文社会系並びに外国人を対象として学長の裁量で教員10名に各50万円を授与した。

授与式では、学長から「本助成金を有意義に活用し、教育研究活動に役立ててほしい」、理事長から「名古屋工業大学が輝く母校となるよう、引き続き教育研究活動を支援していきたい」旨の挨拶の後、受賞者を代表して関健太准教授から謝辞が述べられた。その後、会場を移して懇親会を行い、学長と若手教員等が親しく懇談し、有意義な会とした。

（事務局）



受賞者及び研究課題

井 上 圭 一	非線形分光法によるセンサー型ロドプシンの信号伝達機構の解明
小 林 亮	水素が材料強度へ与える影響について
齋 木 悠	バイオマス燃料のクリーン安定燃焼に向けた能動制御技術の開発研究
田 中 由 浩	皮膚振動に基づく触知覚の理解に関する研究
宮 川 淳	UDP-2-デオキシグルコースの化学合成と糖転移酵素による評価
関 健 太	機構解析ソフトウェアを活用した制御系設計の新展開
岩 田 達 也	DNA・フラビン複合体の作製と酵素機能の発現
吉 田 江依子	進化言語学からみた言語理論装置の検証：フェイズの発生と進化
Niraula Madan	CdTe厚膜成長層を用いた放射線検出器の高性能化に関する研究
Hossain Md. Shahin	アンカー式山留めの最適な支保パターン



高橋学長、篠田理事長等及び受賞者の方々

随筆

翁のたわごと

米沢 敦 (W20)

IPS細胞の実用化まで取り沙汰される現在の社会から見れば伝説的な話題になりますが、編集委員の依頼がありましたので、社会経験の一例を披露させていただきます。

私は終戦直後の昭和20年9月20日、戦時特令で繰上げ卒業した異例の卒業生、当時20歳でしたが、戦時下の学生生活は、1993年の「ごきそ」No.291～No.293で紹介しましたので、その後の体験にします。

空襲で焼け爛れた本館の2階（現2号館の位置）で行われた卒業式で、平田徳太郎校長から「この惨状を復興させるのは君達である」と激



写真1. 焼失前(上)・焼失後の紡織科建物（幹だけになった玄関前の松、中央奥の小山は現在の一本松古墳：昭和20年7月31日撮影）

励を受けたものの、私はその一週間前、就職が決まっていた某大手紡績会社から突然に「本年度の新規採用は一切取り消す」との通知を受けていたのです（写真1）。

終戦直後で国内が混乱していたとは云え、今ならあり得ない問題ですが、心配された科長の寺崎先生のご高配で、10月には滋賀県の某合名会社を紹介して頂き、トボトボと全く見知らぬ土地に赴任しました。

ところが、会社では一人前の技術者として迎えられ機械担当重役に直属の待遇です。

しかし、早々に直面したのは古参熟練者からの妬みにも似た嫌がらせでした。往々にして起きる問題だと、以前から教官に指導を受けていたので覚悟はしていましたが、「こんな会社は貴男のような高学歴者の来る処ではない…」とか、古参が若い工員をそそのかした意地悪などです。

これは意外に早く解消する時が来ました。年上の部下が結核で自宅療養の末、他界されたのですが、身内にまで敬遠されていた病なのに私が見舞いに度々訪れ会社の情報を伝えていた事がとても嬉しかったようで、死んだら一番に米沢へ連絡し礼を言って欲しい…と遺言したことが、狭い町内に伝わったからです。弔問した時に遺族から遺言の話を聴き、胸が熱くなったのを思い出します。

恩師の助言に従い、特に年長者には、役職を問わず誠実に丁寧語で接し、職務外では敬語を用いるように心掛けたお陰ですが、誤解を受けた場合でも「誠実を通せば、必ず報われる」との教訓の初体験でした。

2年目に機械係長の辞令を頂き、小物の図面を描いたり、木型作成から鋳物の発注まで手掛ける様になりましたが、実務経験は皆無でしたので外注先の職人さんに、こっそり教えて頂いたことが沢山あります。

社内業務が軌道に乗って来た頃、開設当初の労働基準監督署の要請を受けて労働安全衛生の啓蒙活動に参加、他業種の推進業務にも協力させて頂きましたが、その地域活動が評価され、県下の最優秀安全管理者として滋賀労働基準局長より表彰されました。まだ24才でしたが、この時期に培われた知識と体験は生涯の糧になりました（写真2）。



写真2. 会社勤務時代のスナップ写真

「絹より細く鉄より強い繊維」と吹聴されて登場したナイロン繊維ですが、当初は問題点も多く、漁網で使用の場合には水中で結節部分が膨潤で弛むのもその一つで、樹脂加工とか熱処理の適正条件を求める研究も行いました。会社には男子寮がなく敷地内で起居していたので、研究に没頭するには好都合でした。

ところが、ある日曜日の作業で温度調整に失敗し、会社に多大な損失を与えてしまったのです。慌てて自宅まで報告に駆けつけた私に、血相を変えて対応した専務とは裏腹に「ご苦労だった。後は私達にまかせろ。失敗は繰り返すな！」と、先ず休日の自発的作業を労った社長

の言葉は、百万言の叱責にも勝り、引責退職まで考えていた私は緊張が解け、思わず涙が出たことは忘れられません。

油断が生んだ天罰だと自戒した、苦い思い出ですが、後日、家庭事情で教職に転じてからも時折噛みしめる貴重な体験です。

この会社は奇しくも、私が定年退職した年に自主廃業されたとのご挨拶を頂戴し、因縁に似たものを覚えて感無量でした。

戦前は日本経済を支える程に勢いのあった繊維産業も時代の波に押され、私が教職に就いた頃から斜陽の途を辿り始めたので、滋賀県に在職中に一年、愛知県では二年と、何れも名工大に内地留学し、日本繊維工業教育研究会の組織を介して、絶版となった繊維系教科書に代わる準教科書を執筆したのをはじめ、生徒には独自に考案した複式学習指導法、つまり集団指導の中で行う個別指導を実践して対応し、全国にも紹介するなど、繊維工業教育の体質改善・充実に努めました。が時流には逆れえず、学校教育の現場から姿が消えたのは残念です（写真3）。

しかし、教科の指導を通して行った人間育成の過程では、民間会社の経験を様々な形で活かし、先生らしくない先生、と保護者から好評を頂いたこともあり、悔いはありませんが、今も生産活動が続ける小企業者から、永年継承してきた技術と事業が、閉鎖に追い込まれる悩みを



写真3. 日本繊維工業教育振興大会にて提言発表を行った様子

聴かされると胸が痛み、これが時流とは言え、日本の経済を支えてきた繊維産業の技術と知識をこのまま消滅させることに疑問を感じます。ハプニングによってスタートした片田舎の小さな会社が、私の人生の力強い基を醸し出してくれるとは夢にも思いませんでしたが、小規模の企業ならばこそ様々な体験の機会に恵まれ、後に芽を吹く種も豊富だったのです。

近年、学生の就活問題を耳にする度に、就職先の選り好みができる幸せな世の中だとは思いますが、個々に事情はあるとしても、始めから希望にぴたりの仕事に出逢う確率は極めて低く、見つけることも難しいと考えます。社会情勢は常に変化しチャンスは隠れているからで、老婆心ながら、石橋も叩き過ぎれば壊れる危険を心得ていて欲しいと思います。

なお、蛇足ですが、私は東南海地震・伊勢湾台風と、大きな災害を二度も体験しました。前者については前記「私達の学生時代」の中で紹介してありますが、学徒動員でクラス全員が会社へ寄宿していたので、70年近く過ぎてもクラス会（写真4）のたびに話題となるほど記憶は鮮明で、中でも倒壊した煉瓦壁の下敷きになった女子従業員の救出作業は強烈な体験でした。

しかし、眉を潜めるような出来事も、当時は平気で対応したことから、緊急時と平常時では感覚に温度差を痛感しますので、物事を論じる時には弁えている必要があると思います。



写真4. お互いの米寿を祝う集いにて(平成25年1月撮影)

昭和34年の伊勢湾台風では、罹災者を支援するため学校に避難所を開設、通学困難の生徒を収容して、約3ヶ月間生活を共にしましたが、「余暇の善用」で奉仕していたボーイスカウトの指導者経験が活き、積み重ねる日頃の経験に無駄はないと思いました。

何れも、被災と救助、両方の体験ですが、当時を知る人は少なくなり、気構えも風化して来るのは事実、「災害は忘れた頃にやってくる」この警鐘には、諸兄もご留意願います。

省みますと、中途半端な卒業生を何時までも温かくご教導を賜った恩師、並びに多数の良き先輩・後輩に巡り逢い、そして支えられて来た私の人生には、偏に感謝があるのみです。学窓で結ばれた絆の有り難さを噛みしめつつ、紙面からも厚くお礼申し上げます。

末尾ですが、久々に頭の活性化の機会を与えてくださった編集委員の皆様には感謝し、併せて、名古屋工業会の益々の発展をお祈りいたします。

編集委員付記

昨年秋に瑞宝小綬章を叙勲されました。



写真5. 近影（2012年）

学生コーナー

(名工大新聞部提供記事)

「日本学術振興会育志賞」受賞一名工大からは初—

小池 花央 (生命・物質3年)

1月11日、独立行政法人日本学術振興会の「第3回(平成24年度)日本学術振興会育志賞」(以下、育志賞)が発表され、大学院工学研究科未来材料創成工学専攻の片山耕大さん(受賞時D2)が本学から初めて受賞した。3月4日には東京の日本学士院で授賞式が行われた。

育志賞とは若手研究者を支援・奨励するために設けられたもので、今後の日本の学術研究の発展に寄与することが期待される全国の優秀な大学院博士後期課程学生に贈られるものである。人文・社会科学、自然科学といった分野があり、学業成績のみならず人間性や意欲的かつ主体的に活動に取り組む姿勢なども評価の対象となる。片山さんは高橋実学長、神取秀樹教授(生命・物質)、京大霊長類研究所・今井啓雄准教授の3人の推薦を経て、第3回育志賞受賞者16人の1人に選ばれた。

片山さんの研究は「霊長類色覚視物質の赤外分光研究」、すなわち人が色を見分ける仕組みについての研究である。人は網膜中に明暗を感じる光センサータンパク質ロドプシンと、赤・緑・青の3種類の光を感じる色覚タンパク質をもつ。前者のタンパク質は調製が比較的容易で世界的にも研究が行われているが、後者の色覚タンパク質は調製が困難で、原子レベルでの構造解析は片山さんが所属する大学院工学研究科・未来材料創成工学専攻の神取研究室でしか行われていない。片山さんがこの研究を始めるきっかけとなったのは、学部3年次のプレ卒業研究で神取研究室のロドプシンについての論文を選んだ際、当時、X線結晶構造が解かれたロドプシンとは異なり、構造生物学的な解析が皆無だった色覚タンパク質の構造を解明してやろうと思ったことだったという。片山さんも研究に携わった2010年には独自の解析法、低温赤外分光法による研究で世界で初めて霊長類の色覚タンパク質の構造情報を捉えるという快挙を挙げ、光を受け取る根源となるレチナール分子の構造は同じにもかかわらず、レチナール分子周辺のタンパク質場との相互作用の差異により認識できる色が異なるということまで分かってきてい

る。また、2012年には色覚タンパク質中に水分子が存在することも明らかにし、急速に進展している研究といえるだろう。

片山さんは生物物理学会中部支部の若手の会の支部長を務めるなど、研究室外でも活発に活動を行ってきた。神取研究室では学会発表への参加が重要視されており、当初は就職を考えていた片山さんも、参加者の自身の研究に誇りを持って成果を発表しディスカッションする姿にかっこよさを覚え、ここまで研究に携わることとなった。学会では必ず質問をするなど、積極的にディスカッションに参加しアピールすることを心がけていたそうだ。

片山さんは育志賞の受賞を果たしたが自身の心境に大きな変化はないという。推薦を受けたことや受賞の実感はなかったが、授賞式では「受賞者と話してみると一人ひとりの意識が高く熱意を感じた。すごいところに来てしまったと思った」そうだ。自らはあまり意識しないようにしているそうで、「まだまだ成長できるので賞に見合うように研究を続ける」と話した。今後の企業や大学といったフィールドの選択は未定だが、これから色覚タンパク質のように細胞外の物質を受け取り伝えるGタンパク質共役受容体の研究に携わっていききたいそうだ。

片山さんは「授賞式で文科省関係の方々から、工学部なのに生物学の分野の研究をしている点を驚かれた。これからの時代、ますますバイオの研究が進展するが、名工大出身者としてバイオ技術を役に立つツールとして世に発信していきたい」と語った。



受賞した片山耕大さん

砥石開発!! CFRPに10mmの穴開け

山田 彩加（電気電子3年）

本学の渡辺義見教授（機械）が炭素繊維強化プラスチック（Carbon Fiber Reinforced Plastics：以下、CFRP）に直径10mmの穴をあけられる砥石の開発に成功した。

CFRPは軽くて・強くて・腐食しないという特性を持ち、現在主に航空分野で広く使用されている。一方で、その大きな強度のために問題点も存在した。その問題点の1つが穴あけ加工法である。従来の穴あけ加工法はドリルにCFRP以上の強度を持つダイヤモンドをコーティングして使用していたが、その方法でもドリルが摩耗しやすく、劣化が早いため頻繁にドリルの交換をしなければならなかった。そのドリルの消費によって大きなコストがかかっていたが、劣化したドリルで無理に穴をあけようとすると、ケバ・剥離につながるためドリルの交換は必要不可欠であった。

そこで開発されたのがジャイロ式穴あけ加工である。ジャイロ式穴あけ加工とは、車輪状の砥石を車輪の回転方向の回転に加え、車輪自体も回転させることによって物体に穴をあける加工法である。その加工法に用いる砥粒としてダイヤモンドを使用することでCFRPに直径10mmの穴をあけることに成功した。

砥粒とは、砥石で加工を行う際の刃としての機能を果たすもので、通常微細粒子となって砥石内部に存在している。しかし、砥粒を傾斜させた傾斜機能砥石を新たに提案した。まず、金属とダイヤモンドの粒子が混ざり合った混合物を型の中に少量注ぐ。そこで型を回転させる



渡辺教授

ことで遠心力によって型の表面に混合物が付着する。型の表面に一樣に混合物が付着したら残りの空間を金属で満たす。以上の工程を経てCFRPに穴あけ可能な砥石が完成する。

この製造方法により壊れにくい上にダイヤモンドの使用量、カラット数ともに抑えられ大幅なコストダウンが見込める。

砥石の発明までにナノダイヤモンドがくっついてしまい、強度が出ないものが生成されるなどの苦労があったという。この製造方法を発明した渡辺教授は「たいしたものだ。みんなで頑張ったからこそここまでこれた」と語った。また、現在実際に飛行機で使用されているのは6～7mmの穴なので、今後は違う材料に対しての穴あけ技術として応用できないかなど、別の方向性を模索していくとのこと。なお、本開発は岐阜県工業技術研究所と共同で行われた。これからはジャイロ方式穴あけ技術とその砥石の製造方法の未来に期待していきたい。

新微細化剤でAl鋳物の強度向上

山田 彩加（電気電子3年）

本学の渡辺義見教授（機械）がアルミ鋳物の強度向上させる高性能微細化剤の開発に成功した。

金属鋳物の強度は材料の粒径に依存する。粒径が小さければ小さいほど強度は大きくなるのだ。そこで、鋳物を作る際には多くの場合において微細化剤というものを使用する。

微細化剤とは水が氷になるときの足場のものようなものである。微細化剤には鋳物材との界面エネルギーが小さいものが適している。界

面エネルギーを小さくするためには鋳物材の結晶と構造が似ており、大きさも同じくらいの不均質核物質である必要がある。こういった構造の差異を不整合度という評価基準で示すが、この不整合度が小さいほど不均質核物質として望ましい。

以上の理由から、現在までアルミニウム（以下、Al）を鋳るときにはアルミ三チタン（以下、 Al_3Ti ）を主に使用していた。Alの格子を

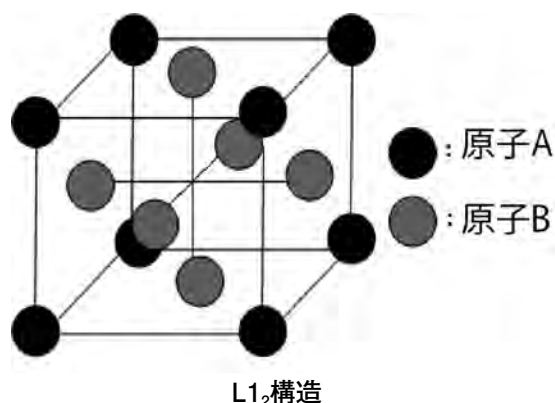
二つ重ねたものが Al_3Ti の格子と類似していたのだ。しかしそれでも、 Al と Al_3Ti の格子には差があり、適切な微細化剤ではなかった。

そこで注目したのが L_{12} 構造という結晶構造である。 L_{12} 構造というのは2つの異なる原子がそれぞれ立方格子を形成しているもので、単位格子で見ると面心立方格子のうち面心に来る原子と立方体の頂点に来る原子とで種類の異なる原子が配置されるという構造となる。

今回の開発前までは Al_3Ti に銅を混入させ、 L_{12} 構造をつくることは証明されていたが、それを Al に入れる製造方法が確立されておらず、真偽も確かめられていなかった。

今回の開発ではこの微細化剤をつくるために放電プラズマ焼結法（Spark Plasma Sintering：以下、SPS法）を用いることで微細化剤の生成に成功した。

渡辺教授は「この実験はやればやるほど成果



が出てきた。将来有望な研究である」と語った。今回の発明は自動車関連企業やアルミ製造業からも注目されている。今後は純アルミだけではなく casting アルミ合金にも微細化剤が働くのか、違う物質でも SPS 法で微細化剤の生成が可能なのかというところに目を向けている。この研究分野のこれからに期待したい。

学内ニュース

第1回世界的著名研究者講演会を開催

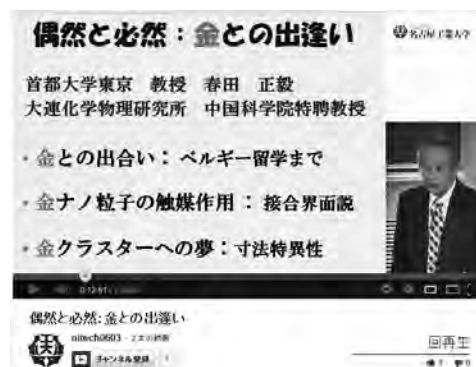
名古屋工業大学では、世界的に著名な研究者を招へいし、学生、教職員及び卒業生が国際舞台での活躍に意欲を高めるために、6月3日（月）第1回世界的著名研究者講演会を開催した。また、世界への情報発信も目的としてライブ映像配信サービス「Ustream」にて日本語と英語の同時中継も行った。

今回の講演は、2012年のトムソン・ロイター引用栄誉賞（化学）（ノーベル賞有力候補者）に輝いた首都大学東京大学院教授の春田正毅氏（1970年名古屋工業大学工業化学科卒業）を講師として「偶然と必然：金との出逢い」と題して行い、約350人の会場参加者と日本語と英語合わせて約700人の「Ustream」視聴者が参加した。

春田教授からは、金の触媒作用を研究することになったきっかけや研究を進める上での国内外の研究者との出会いについて興味深いお話があり、講演後は研究テーマの選定等について活発な質疑応答が行われ大変有意義な講演となった。本講演は、7月10日まで動画共有サービス「YouTube」にて英語と日本語の録画で配信された。（事務局）



春田正毅氏



YouTubeにて配信

新聞記事コーナー

名工大で子供たちが 宇宙・科学にふれる

(25.4.1. 中日新聞)

名古屋工業大学は J A X A（宇宙航空研究開発機構）、科学番組ディスカバリーチャンネルと共に3月31日、「宇宙開発が拓く、私たちの未来」をテーマに、子供たちに科学や宇宙に興味を持ってもらう教室を名古屋工業大学で開催し、親子連れ約400人が参加した。

午前と午後の二部に分けて開かれた教室では、J A X A スタッフらの説明を受けて凹凸レンズを組み合わせて望遠鏡の原理を学んだり、宇宙の膨張を示すとされるドップラー効果を体験する実験をしたりして、宇宙への関心を高めた。また、星での乗り物「ホバークラフト」の模型をポリ袋と厚紙で工作し、春休みの一日を親子で楽しんだ。

ナナちゃんを名古屋駅の核に

(25.4.28. 中日新聞)

市民参加型イベントを仕掛ける N P O 法人「大ナゴヤ大学」と伊藤孝紀名古屋工業大学大学院准教授（建築・デザイン工学）が昨年7月に「Think(考える) ナナちゃん」という名の会議を立ち上げた。リニア中央新幹線（東京－名古屋間）2027年開業予定に向け、名駅一帯の大規模な再開発が進められるなか、同会議は「ナナちゃん」を核にした、名古屋の新たな玄関口づくりの戦略本部となっている。

伊藤孝紀研究室が昨年度、名古屋圏の300人余に「ナナちゃん人形のイメージ」調査を実施したところ、知名度は100%、60%以上が好印象と回答した。伊藤准教授は、「ナナちゃん」は40年という歴史が大きな強みであり、名前を聞いてすぐにその土地が浮かぶという点でも、タイプ別に分類した全国のモニュメントやオブジェの知名度・実用性の比較評価で群を抜いていると高く評価している。

妊婦の発汗量は一般女性の1.5倍

(25.5.21. 中日新聞)

名古屋工業大学の平田晃正准教授（医用工学）らの研究グループは、妊婦と一般女性の体温と発汗量の変化を追ったシミュレーション実験で、妊婦が夏に体内から出る水分量は一般女性の1.5倍という結果を得た。

妊婦と一般女性の血流量や体温変化、発汗量などのデータを入力した人体モデルを使って、気温35℃のもとで実験を行ったところ、1時間後、一般女性の体温37度が37.1度に上昇したのに対し、妊婦は37.1度から37.3度まで上昇した。胎児の体温が高いのに伴って妊婦はもともと一般女性より体温が高くなるため、外気温が高いと発汗量も一般女性より増える。1時間経過後の1分間の発汗量は一般女性2.1mlに対し、妊婦は3.0mlで、計算上では8時間に失う水分量の差は400mlになる。ただ、体温が上がって発汗量が増えても、妊婦が健康ならば胎児の安全は護られるという。

平成24年度名古屋支部“工場見学研修会”開催報告

平成25年3月8日(金)、名古屋支部の平成24年度工場見学研修会を、バス1台満席の参加者38名で開催しました。

午前は、愛知県東海市にある東邦ガス㈱の「スマートエネルギーハウス」及び「ガスエネルギー館」を見学しました。

スマートエネルギーハウスは、3電池（燃料電池・太陽電池・蓄電池）の最適制御に関する実証試験施設で、同社技術研究所主席の水谷安伸氏（Y58）のお世話で施設見学を行いました。「創エネ技術」である燃料電池・太陽電池と、「蓄エネ技術」である蓄電池を組み合わせることで、快適に暮らしながら、CO₂排出量や購入電力を抑制するとともに、停電時などの非常時における電力確保が可能であること、また、3電池をネットワーク化し、それらを統括的に制御し、効率よく運転することで更なる省エネルギー化を図る技術について説明がありました。

また、ガスエネルギー館は、地球温暖化とエネルギーについて体験しながら楽しく理解できるよう工夫されており、期待されるエネルギー「燃える氷」メタンハイドレードの燃焼実験などもあり、楽しい見学となりました。

昼食後は、常滑市にある「めんたいパークとこなめ」において、ギャラリーと製造工程の見学、その後、半田市にある「国盛 酒の文化館」において、1972年まで約200年にわたって実際に酒造りが行われた酒蔵をそのまま生かした施設内で、伝統の道具や資料の見学を行いました。

見学研修の終了後は、恒例の浩養園で参加者一同、焼肉パーティで懇親を深めました。参加頂きました皆様、「スマートエネルギーハウス」見学でお世話になりました水谷様にはこの紙面を借りましてお礼申し上げます。

記：勝 祐介（ZY⑤）



東邦ガスにて



スマートエネルギーハウス



国盛 酒の文化館



懇親会（浩養園にて）

平成25年度尾張支部総会報告

本年度の総会は、平成25年4月20日（土）に、稲沢市民会館小ホールで盛大に開催できました。

当日は来賓として、本部理事長・篠田陽史様（M33）と名古屋工業大学 学長特別補佐・教授・森秀樹先生（D52）及び昨年11月にJ R名古屋駅コンコースで開催の「名工大・名市大合同テクノフェア2012」に出展されていた名古屋市立大学講師・渕田英津子先生の3名。会員の参加者は42名、さらに特別講演とミニコンサートには家族&知人十数名にも参加していただきました。

第1部の支部総会は玉田支部長挨拶。次いで、篠田理事長からは本年4月1日より一般社団法人名古屋工業会になり、本会の目的は大学支援が第一であること、本年入学式の際に7学科の入学試験成績トップの学生7名に特別奨学金を贈呈したことなどをお話いただきました。学長特別補佐の森教授からは広報戦略担当で活動していることが前置きされ、名古屋工業大学近況をレジュメ（入試志願倍率、就職率、名市大薬学研究科との共同大学院、戦略的取組、社会人教育、国際関係など）を用いてお話していただきました。

続いて、平成24年度事業報告、同会計報告、同会計監査報告（音無監事）、平成25年度事業計画（案）の説明を行い、承認を得ました。

第2部は特別講演。講師は名古屋工業大学大学院情報工学専攻教授・徳田恵一先生（Es59）より“世界初！『双方向音声案内デジタルサイネージシステム』～名工大正門メイちゃんプロジェクト～”と題してお話していただきました。

メイちゃんは、名工大正門を入ったところに設置されている大型ディスプレイに登場する3Dキャラクターです。来校者の声を認識し学内を案内するという、世界初の全天候型デジタルサイネージ



名工大の新しい顔メイちゃん



（電子看板）です。その開発経過を多数の映像や音声駆使して紹介していただきました。

メイちゃんは人気者で、「名工大の顔としての認知と利用」、「メイちゃん効果（情報工学科の入試倍率が急上昇、休日には記念撮影に来る親子連れ等）」、「メイちゃん関連の報道」、「今後の展開（英語モード、ショッピングモール等、キャンパス外への展開など）」の紹介もありましたが、是非とも一度「メイちゃん公式ウェブサイト」をご覧ください。

第3部はミニコンサート。ソプラノ・高田一早枝さん、佐藤由香さん、宮崎正枝さん、ピアノ・柳河瀬貴子さんで『歌でつなぐ世界の旅』をオペラ曲中心に楽しみました。



第4部は記念撮影。ミニコンサート出演者にも入っていただいたのスナップです。



第5部は懇親会に先立って昨年4月29日付け“春の叙勲”で「瑞宝小綬章」を受章された当支部・不破幸雄様（E30）に花束贈呈を行い、ご挨拶をいただきました。続いて、本部代議員・支部参事の服部重夫様（Y43）に乾杯の音頭をお願いし、コンサート出演者も参加、立食パーティーで歓談。自己紹介は、時間の関係で初参加の2人だけでした。

最後に全員で「東海の邦のほまれに」を斉唱し、中締めは魚住養正様（W22）の発声で万歳三唱して散会しました。お陰さまで今回も楽しい総会を開催することができました。

記：尾張支部長 玉田欽也（W32）

大阪支部25年度「春季歴史探訪の会」開催報告

(難波のルーツを訪ねて大阪・上町台地に行く)

好天に恵まれた平成25年4月27日(土)、総勢40名(内、ご夫婦5組)が大阪城に隣接する「大阪歴史博物館」前に午前10時に集合。松田清治氏(K39)は、はるばる岡山県からのご参加。午前中は当館内で上町台地の地形的な成り立ち、復元された実物大の難波宮の大極殿、秀吉による大阪の町づくり、「天下の台所」と謳われた市井の様子などの見学に充て、当館の地下に眠る「難波宮遺跡ツアー」にも参加した。

昼食後は、3班に分かれて、ガイドさんの案内で「上町台地」の北端に位置し、前期、後期に跨る「難波宮跡」からスタートし、キリシタン大名細川忠興ゆかりの「越中井」や夫人の「ガラシヤ像」などを見ながら「三光神社」へ。ここは慶長の合戦の折真田幸村が守る出城の跡で、幸村の掘った大阪城につながる暗道あとが「真田の抜け穴」として今も残り、陣中姿の幸村の銅像が威容を誇る。

この後はアップダウンの多い街中を歩いて江戸時代の僧契沖の庵跡「円珠庵」へ。この庵内にある榎の大木の幹に鎌を打ち込んで願うと悪縁が絶てるという信仰があり、多くの新旧の鎌が打ち込まれているさまが今でも見られ、「鎌八幡」の名でも知られる。この後、元禄年間の俳諧師・浮世草子作家である「井原西鶴」の墓を経て、民家から立ち上る炊煙を見て「民の竈は賑わいにけり」と述べられたとされる仁徳天皇を祀り、落語「高津の富」でも知られる「高津宮」(高津神社)に詣でて、行程の前半を踏破した。

行程の半ばに当たる「生国魂神社」において、後半のガイドさんに交代。ここは親しみをこめて(生玉さん)と呼ばれ、神武東征の折日本列島の神々を奉った大阪最古の神社であり、境内社には土木建築業界の崇敬の篤い「家造祖神社」、金物業界の守護神「轡(ふいご)神社」などがあり、我々にも関係の深い神社である。この後「天王寺七坂」と呼ばれる坂を上り下り

しながら「愛染さん」として初夏の風物詩“愛染祭”の宝恵駕籠で知られる「勝鬘院」(愛染堂)や、京都の清水寺に似せた舞台や滝がある、その名も「清水寺」などを巡る。この辺り一帯は崖の上にあたり夕陽がきれいに見えることから「夕陽丘」の町名がある。前出の真田幸村の戦死跡碑や座像のある「安居神社」を最後に「一心寺」に至る。

この「一心寺」は、全国から納められた遺骨で造られた阿弥陀仏の骨仏で知られ、多い日には十万を超す参詣者があるとのこと。今回は寺内の三千仏堂において当寺の前住職である高口恭行長老より講演を頂く機会を得た。長老は京大の建築学科を卒業、住職として寺内の堂塔の設計を手がける傍ら奈良女子大教授として長年にわたり教鞭をとられるなど異色の経歴の持ち主でもあり、「一心寺の成り立ち」など興味深いお話を伺うことが出来、一同感動しきりであった。当寺において一部は解散し、多くは再びガイドさんに連れられ「四天王寺」の拝観へ。夕陽のさす境内を一巡し、説明を受けたあと午後5時半ごろ解散の運びとなったが、歩数計は優に二万歩を超えていた。近くにおりながら意外に知られていない「上町台地」をじっくりと知った探訪行であった。

記：藤原 康宏 (E36)



平成25年度 岐阜支部総会報告

岐阜支部の平成25年度総会及び懇親会を、平成25年5月11日(土)午後5時から岐阜駅前のホテルリソル岐阜に於いて開催しました。岐阜支部は4年毎の幹事制をとっており、今年度は建築学科が担当する2年目の総会になり、少しずつ慣れてきたようです。

例年通り総会前に、支部活性化事業として講演会を行い、今年度も当大学卒業生で岐阜県産業経済振興センター産業振興部コーディネーター及び電子技術指導センター長である大久保陽一氏(Es44)に依頼しました。演題は、『タイヤ空気圧と安全技術と話題の開発商品の紹介』と題し、総会前の1時間ほど講演していただきました。講師のユニークな経歴と企業開発商品の概要に始まり、更には企業と企業とのコミュニケーションから個々の信頼関係など話は二転三転と流れ、興味ある講演となりました。講師の提案として、卒業生のコラボで商品開発やアイデア提案など、卒業生が長年蓄積した技術と知恵を発揮できる場を岐阜支部が担うことができれば、死ぬまで現役でいるという人生設計ができるとのことでした。



講演会の様子



総会終了後の集合写真

一旦休憩の後、平成25年度岐阜支部総会を開催しました。山中支部長(A34)より開会挨拶の後、来賓である名古屋工業会常務理事 二枚幸夫氏と名古屋工業大学卒業生連携室長 北村正氏より挨拶をしていただきました。二枚常務理事より名古屋工業会の組織変更状況と会費徴収状況を、北村室長より大学の状況と将来展望をお話いただきました。その後4議案を上程し、報告・協議し、滞りなく議決していただき、議事を終了しました。総会終了時に、参加者全員で集合写真を撮影した後、懇親会を行いました。

記：田中清之 (A54)

平成25年度 三河支部代議員会合報告

平成25年5月9日(木)に豊田市のホテルトヨタキャッスルにて支部所属代議員の皆様が集まっていたいただき、会合を開催しました。

一般社団法人への移行について改めて支部内へ展開する事と、次期支部長選出や行事、今後の支部の協力体制など今後の支部の運営について各職域の意見を中心に意見を頂き議論いたしました。

一般社団法人へ移行するに当たり、変わるべきところは積極的に、継続すべき事はより支部全体に良い事となるように、今後とも代議員をはじめ各職域、個人会員の皆様とともに進めて行く事としました。

今年度は恒例のゴルフコンペと隔年開催の支部総会が開催予定であり、これらのイベントについても前回以上に盛り上げるべく継続して皆様から意見を頂けるようお願いいたしました。

記：山本 桂己 (Zk⑪)



静岡支部「テクノフォーラム」開催報告

平成25年3月2日（土）に浜松市の浜松復興記念館において第6回テクノフォーラムが開催され、35名が参加しました。今回は経営コンサルタントの中村秀樹さん（土木 S51）による「技術屋の経営コンサル奮戦記」と光センサー開発技術者の山村和久さん（工業化学 S59）による「高エネルギー物理実験と光センサー」の2件の講演が行われ、参加者一同が熱い講演に聞き入りました。

中村さんは約10年間の国内、海外の建設工事、プロジェクトを経て、現在は経営コンサルタントとして活躍されております。これまでのコンサル実務の中で体得した仕事の心構え、仕事の仕方及び具体的事例を披露されました。キーワードの聴く力、見抜く力、分析し説明する力、人間力、信頼は総てのことに通じるものです。

山村さんは高エネルギー加速衝突物理実験に使われている検出器の開発者として現在までに解明された素粒子及び宇宙の成り立ちについて解説しました。一昨年からの欧州原子核研究機構（CERN）の実験で最後の未確認素粒子のヒッグス粒子の存在が確定されてきました。このような最先端科学の進歩が人類の発展に貢献していくことが期待されます。

講演会終了後は会場近くで懇親会を開催して皆で親睦を深めました。当日は晴天なれど春の強風のなか、多数の方が静岡県各地から集まり、意義深い一日となりました。改めて技術と経営のバランスの重要性を認識するとともに工業会会員の今後の一層の活躍を期待した次第です。

記：藤井義磨郎（電子 S49）



名古屋工業大学写真研究部OB会 開催報告

去る平成24年10月27日（土）に、名古屋工業大学写真研究部OB会を浩養園にて行いました。

当会は、平成22年にOB会を開催して以降、名簿の作成など徐々に体裁を整え発足しました。昭和36年卒業の方を筆頭に150名以上の会員を持ちます。

当日は、昭和39年卒から平成6年卒までの総勢60名にお集まり頂きました。そしてWEBサイト開設についてのご承認を得たり、また前回（平成23年）OB会で行ったOB展の様子を記録したフォトブックの披露をしたりしました。これは希望者には実費にて頒布するものです。その他、会員相互の交流の為、各人にショートスピーチをお願いしました。大学で初めて組写真に出会ったお話とか、他大学との交流といった在学当時の思い出、社会人となられてからのお仕事に関する内容や現在の写真活動など皆様のお話を聞くにつれ、同時期に在籍していないながらも先輩・後輩の繋がりといったものを感じました。

今後ですが、今年度は10月6日（日）にOB会、そして次年度（平成26年）にOB展開催を予定しています。OB会の企画内容は以下のホームページをご参照ください。

最後に、紙面をお借りして若い世代への呼びかけをさせて下さい。現在、平成11年卒あたりから現役に至る間の名簿が埋まっております。これをご覧になられたOBの方で、まだOB会にご連絡のない方は、以下のOB会ホームページの「お問い合わせ」フォームでご連絡ください。よろしくお願いします。

写真研究部OB会ホームページ

URL：<http://nitpraob.jimdo.com/>

連絡先：代表幹事 吉田信人（M57）

記：佐藤達治（G62）



昭和41年D科卒業クラス会報告

平成24年のD41クラス会は、10月28・29日に17名の参加者を得て、1泊2日の旅程で実施されました。一日目は石川県の恐竜博物館見学・雨の平泉寺白山神社での散策の後、山中温泉に宿泊。卒業後約45年間を経過した現在も、お互いに健康で1年振りに再会できた喜びを、皆で乾杯。大学時代の懐かしい話とカラオケで大いに盛り上がりました。翌日は、金沢市の古い町並みを見ながらの散策と箸の金箔張りを経験。昼食後、来年の再会を約して解散となりました。

今回のクラス会では、名工大基金への寄付を皆でしようということとなり、寄付をさせていただきました。

記：阿部完二（D41）



計				報			
吉 永 恒次郎	C 6	H23. 10. 2	小 野 武	M32	H24. 6. 14	山 中 栄三郎	D35 H24. 5. 13
近 藤 清	C11	H20. 10. 27	村 上 操 徳	M34	H22.	宮 地 一 光	D39
秦 三 生	C16	H24. 9. 17	三井田 徳之助	M36		加 藤 又 男	Y23
長 尾 稔	C20	H24. 12	小和田 明	E13	H25. 5. 26	細 川 伸 三	Y32
中 川 善 松	C21		加藤(堀田) 清	E14		宮 川 信 夫	Y32
山 田 正 男	C28	H25. 5. 6	細 井 茂 樹	E16	H23. 8. 20	吉 田 長 雄	K22
中 村 優	C32	H24. 1. 2	神谷(岩田)信次	E16		浅 井 安 吉	K23 H23. 7.
奥 村 武 彦	C41	H24. 5	中 尾 一 美	E16	H24. 2. 29	石 川 猛	K23 H23. 2.
高 橋 徹	C41		小林 (堀田) 修	E20		石 黒 博 正	K23
武 田 金 次	A19	H25. 1. 28	山 田 俊 夫	E20	H25. 1. 24	大 野 和 男	K23 H24. 10. 5
志 賀 信 男	A20	H24. 8. 18	津 末 幸 久	E29	H24. 9. 18	大 谷 次 郎	K23 H23. 12
瀧 宏 武	A24	H20.	倉 田 怜	E31	H24. 11. 4	深 谷 博	K23
村 山 三 郎	M12	H24. 9. 9	林 圭 一	E32		内 藤 和 夫	K23 H22. 10.
後 藤 茂 雄	M13	H25. 4. 22	稲 葉 次 紀	E41		永 島 武一郎	K23
今 井 孝四郎	M15	H23. 6. 29	水 野 武 男	W16		立 家 正 雄	K23
小 林 十 三	M15		安 藤 忠 夫	W16	H25. 2. 22	水 野 勉	K23
清 水 堅	M16	H24.	野々部 正 哉	W28	H21. 7	木 全 秀 視	K33 H24. 10. 8
鈴 木 道 三	M18	H25. 2. 4	青 山 實	W37	H24. 8. 30	米 山 俊 二	F44 H15. 7. 30
齋 藤 清	M19	H24. 12	藤 田 正 和	W40		福 森 嘉 樹	F51 H19. 2. 11
田 中 清 春	M20		樋 口 智	D22	H24. 8	長谷川(堀田)勇	F52 H23. 11.
井 上 明 夫	M22	H25. 1. 28	倉 知 保 彦	D23		太 田 茂 夫	F54 H18.
市 川 員 彦	M23	H25. 5. 14	清 水 勲	D23	H24. 12. 9	石 川 守	F56 H16. 5. 30
河 合 三智磨	M23	H24. 10. 23	齋 藤 善 彦	D33	H22. 9.	高 林 盛 久	Ⓚ19
脇 田 政 敬	M24	H24. 8. 29	伊 藤 英 雄	D34	H24.	黒葛原 暁	Ⓚ20 H24. 5. 13
玉 田 一 實	M25	H25. 2. 18	堀 睦 美	D35	H23. 9. 17	葛 谷 一 郎	Ⓚ23

謹んで哀悼の意を表します。

一般建築からコンクリート
補強・補修・耐震工事まで

おかげさまで50年



株式会社 前田組

昭和区紅梅町3-3
☎852-2225

特許業務法人
英知国際特許事務所

EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎孝治

— 知財の総合コンサルタント —



【東京本部】〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13
TEL: 03-3946-0531(代) FAX: 03-3946-4340
【神奈川支部】〒224-0006 横浜市都筑区荏田東1-23-2
TEL: 045-532-3827 FAX: 045-532-3828
【浜松支部】〒430-0806 浜松市中区木戸町3-18
TEL: 053-461-5662
【山形支部】〒994-0026 山形県天童市東本町1-2-20
TEL & FAX: 023-651-6102
【大阪支部】〒593-8324 堺市西区鳳東町2-198
TEL: 072-201-1593 FAX: 072-201-1596
【仙台支部】〒980-0813 仙台市青葉区米ヶ袋1-2-6-402
TEL: 080-5682-0531
<http://www.eichi-patent.jp>

(株)ブライダルは
名古屋工業大学会員の皆様の
「結婚」を応援します。

35年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってください

登録料 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 → ¥204,750 etc.

エクセレントコース ¥378,000 → ¥362,250 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り。
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 ブライダル お問い合わせ (月曜定休) ☎0120-415-412
<http://www.bridal-vip.co.jp>
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・
パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げら
れたノウハウはDTPにおいて、特に
不得意とされる版組みの書籍・表組み
の買物も得意分野です。

印刷

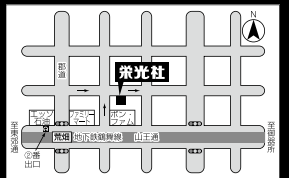
カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色
刷り・品質・部数・ご予算に応じて提供
いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太
郎等の通常オフセット印刷に過ぎな
いWindowsデータの出力ノウハウも
ありますのでご相談ください。

製本

自分史・体験記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・講話・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文庫・名簿・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本でお困りの学生・法人の方、少ロットよりお手伝いします。

総合印刷の
有限会社 栄光社

〒466-0014 名古屋市中区東堀町一丁目42番地
TEL(052)741-7701
FAX(052)741-7703
URL <http://www2.ocn.ne.jp/~eik/>
E-mail eikou@theis.ocn.ne.jp



60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座 ー材料、加工、設計、電気・電子、
組込コンピュータ、各種要素技術…

品質系全30講座 ーDRBFM、なぜなぜ分析など
各種未然防止手法

マネジメント系全10講座 ー経営品質、もしドラーダシッ、
プロジェクト管理…

WORLDTECH

株式会社ワールドテック

代表取締役 寺倉修(F50)

〒458-0901 名古屋市中区錦2-15-22リそな名古屋ビル7F

TEL: 052-219-6025

FAX: 052-219-6026

E-mail: solution@worldtech.co.jp

広報委員会

委員長 森川 民雄 (W45)

前田 健一	山盛 康 (SC③)
北川 啓介 (A⑧)	安楽 崇宏 (M⑧)
大羽 達志 (MF③)	廣瀬 光利 (E50)
中村 剛士 (EJ⑤)	吉木 満 (W56)
高木 幸治 (ZW⑤)	野中 久義 (D⑨)
吉野 明広 (G53)	道家 清正 (Y30)
本多 沢雄 (ZY⑥)	宮地 義彦 (K50)
米谷 昭彦 (F60)	守田 賢一 (F47)
横山 淳一 (Fb⑥)	犬飼 伸宏

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。